

令和6年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	24	学 校 名	静岡県立吉原工業高等学校	校 長 名	渡森 和彦
------	----	-------	--------------	-------	-------

本年度の取組

	取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標	担当 部署	達成状況	学 校 自 己 評 価	関 係 者 評 価	意見
ア	安全教育の 推進と危機 管理能力の 向上	交通マナーおよび危険予知の向上を図る。	・「登下校時、交通法規を遵守している」と答える生徒 100% 達成。 ・イエロー切符受領者各学年 10 人未満。	生徒 支援 部	・99%の生徒が交通法規を遵守していると回答した。 ・イエロー切符受領者は、11 月末の段階で延べ 40 人であった。	B	A	令和6年11月道路交通法の改正により自転車に対する罰則規定が強化。例えば自転車の「ながらスマホ」があり周知していく必要がある。警察署から、吉原工業は他校に比べてイエロー切符受領者が少ないと聞いている。過去、大きな事故があり、よく改善されている。今後、前年度比など資料として欲しい。
		自転車通学者が主体的に車両整備に取り組む。	・TSマークに関する指導を徹底し、整備不良事故0件。	生徒 支援 部	・整備不良が原因となる事故は発生しなかった。	A	A	特になし
		自治体等、地域との連携を深め、地域安全に	・地域防災訓練への参加率 90%以上。訓練不参加者へ学習機	総 務 部	・地域防災訓練への参加率は 351 人中 195 人で、参加率 56.6%だっ	B	B	希薄になっている生徒、家庭の意識をいかに上げるか

		貢献する。	会の提供。 ・「地震等大規模災害発生時の連絡方法や行動について親と話し合っていて決めている」と答える生徒80%以上。 ・外部機関と連携した新規防災教育の実施。		た。 ・「連絡方法や行動について親と話し合っていて決めている。」と答えた生徒は57.1%だった。 ・学校で行う防災訓練に、消防署の職員を招き、消火訓練を行った。			が重要。(連携強化) 「自分の命は自分で守る」ことが大切。通学途中の崖崩れ等の防災について家庭で話し合うのも一つ。今年度の校内防災訓練では、消防署の方と連携し消火器の使い方を教わった。
予防的危機管理の実施		実習・実験等による安全管理を徹底する。	・工場安全パトロールに対応し、実習室の整理整頓を行うとともに、事故0達成。	工業科	・各科で実習前に安全教育を実施し、整理整頓を徹底したため、実習中の事故0を達成した。	A	A	是非事故0を継続していただきたい。
		生徒の生活面の状況を把握し、早期指導に繋げる。	・面接週間の定期的な実施:各学期1回。 ・生活アンケートの定期的な実施:各学期1回。	学年部	・年間3回の面接週間を実施し、担任は生徒全員と面接できた。 ・生活アンケートを学期に1回実施し、早期指導につながった。	A	A	9月上旬、夏休み明けは不登校になりがちであり、ここでの観察や指導は大切。生徒の表情からも生活面の状況を把握できるのできめ細やかに丁寧に進めてほしい。
健康指導の推進		他団体との連携を推進するとともに、健康に関する知識・能力を高める。	・朝食欠食者へのセミナーの充実。 ・朝食摂取率95%以上。 ・歯磨き習慣に関する実態把握と率向上。 ・新入生オリエンテーションでの保護者への呼びかけや、健	保健支援部	・朝食摂取率は89.4%(R5:89.6%)で目標をやや下回った。 ・1日に2回以上歯磨きする生徒は86.7%(R5:78.6%)で向上した。 ・健康診断の再検査報告率は64.0%(R5:47.3%)で向上した。	A	A	例えば管理栄養士の話やスポーツ栄養セミナーの話を聞いてもらおうと興味をもってくれると思う。

			健康管理を題材とした全校集会を実施することで、健康診断結果による再検査受診率を向上させる。					
		自己の健康管理を意識させる新体力テストで、男女ともに表彰を目指す。	・「1年間で体力が向上した」と答える生徒90%以上。	保健体育科	・体力が向上したと答えた生徒は74.8%で、目標には達しなかった。	B	B	昨年の90.2%から減少した。春と秋のデータを比較する見方もある。中学では部活動に参加する生徒が確実に減ってきている。部活動で体力を向上させる度合いはかなり大きい。企業では、国の政策で「健康経営」をめざしている。高校で自己管理の大切さを伝えてほしい。
イ	自立や社会参画へ向け、生徒一人ひとりの教育的ニーズの把握と適切な指導および必要な支援の実践	不登校や学校不適応を早期把握し、支援・指導を充実させることで、生徒を救い育て卒業へ導く。	・「チーム担任」による学級経営力の強化 ※各クラス3名の正副担任による取組。 ・適切なタイミングでの保護者連携方法の運用と確立。 ・ケース会議の随時開催。 ・必要に応じた個別の指導計画の作成と活用。 ・教職員間の情報共有強化へ向け情報交換会の週1回定期開催と校内研修の開催	保健支援部・学年部	・副担任の役割を明確にして、「チーム担任」を軌道に乗せた。 ・毎週火曜日にスクールカウンセラーに來校していただき、専門的な視点から生徒の支援に取り組んだ。 ・ケース会議にも何度か出席していただき、教職員に対する助言をいただくことができた。 ・毎週水曜日の時間割の中に教育相談に関する情報共有会議を設定し、必要に応じて	B	A	吉原工業のきめ細かい指導、ありがとうございます。教員の限られた時間内で、引き続き情報共有や申し送り事項等、コミュニケーションをとっていただきたい。 生徒が、最初は、先生が嫌だと言っている、就職が決まり卒業が近づくと良い先生だという話を聞く。吉原工業は「熱心な先生が多い」と保

			1 回以上。 ・命を守る教育への具体的な取組の検討・実施。 ・教育相談調査票(入学時提出)に関する情報共有体制を整え指導に活かす。		教育支援計画・教育指導計画を作成した。 ・薬学講座(全学年)や思春期講座(1 年生)において、薬物や妊娠に関する講話を実施し、生命の大切さを再認識する機会を設けた。 ・教育相談調査票に記載された情報については、保健調査票の情報と併せて一覧表を作成し校内LANをとおして共有している。		護者の感想をよく聞く。 学校として踏み込める部分は、最大限の手だてをしていると思われる。 これ以上先生方の負担を増やすのは無理かと思う。 SNS についてのモラルやルールなど追加していただけるとさらに良い。
	新生徒指導提要および新学習指導要領に則り、積極的に外部機関を活用することで指導を充実させる。	・児童相談所やNPO 法人、および警察・市役所等の外部機関との連携を更に強化する。	生徒支援部 ・保健支援部 ・学年部	・富士特別支援学校のセンター的機能、富士市若者相談窓口ココカラ、児童相談所、富士市こども家庭センターなど、必要に応じて外部機関の助力を求め、活用することができた。また、富士市若者相談窓口ココカラとの連携により、新たに居場所カフェやコミュニケーションスキルアップ講座を実施することができた。	A	A	若い方の心のケアが増加傾向にある中、いかにサポートしていくか。先生方の限られた時間と環境で、外部機関との積極的な連携に本当に興味いたします。吉原工業が変わってきていると実感できる。 居場所や家庭環境の背景から、生徒ホール(放課後)での「居場所カフェ」は、素晴らしい取り組みだと思う。

	「成年年齢・選挙権年齢の引き下げ」および「こども基本法」の成立等对社会变化に対応した指導の実践	教科指導と特別活動の往還により、成年年齢・選挙権年齢の引き下げに対応する。	・消費者講座、労務講座等と連動した教科指導の実践。 ・地域選挙管理委員会と連携した生徒会選挙の実施。(主権者教育を実施)	関係教科 ・生徒支援部	・外部講師を呼んで消費者講座を実施することができた(予定)。 ・地域選挙管理委員会と連携して、総選挙の周知等を行うことができた。	A	A	特になし
		新生徒指導提要求で重視されている、発達支持的生徒指導を推進することで、生徒の自己決定権を尊重しながら自己指導能力を伸張し、主体的・持続的で正しい行動習慣を涵養する。	・TP0に合わせた、主体的な行動・選択習慣を身に付けさせるため「校則の見直し」へ生徒会の意見を反映させる。	生徒支援部	・校則を見直し議論することはできたが、生徒の意見を反映させるところまではできなかった。	B	B	自由には制限がある。不自由より実はずっと厳しさ・難しさもあることを生徒に教えていただきたい。
ウ	キャリア教育の推進による能力・適性・希望に応じたきめ細やかな進路指導	進路意識の早期定着と向上を目指し、新たに整理した系統的な進路指導体制を充実させることで、進路実現を支援する。	・「進路行事を通して進路意識が向上した」と答える生徒95%以上。 ・「進路について親と話をすると答える生徒90%以上。	進路支援部 ・学年部	・「進路行事を通して一年間で進路意識が向上した」と答えた生徒86.5%だった。 ・「進路について親と話をすると答えた生徒85.2%だった。	B	A	次年度の商工会議所との連携事業への積極参加も期待している。商工会に属していない企業との連携にも期待する。
		商工会議所等と連携し、地域の産業理解を推進する。	・文化祭や放課後の時間を活用した地域企業による校内でのブース設置、延べ15社以上。	進学生徒支援部	・商工会議所との連携した「キャリアカフェ」事業を8回(参加企業15社)実施した。生徒は100%が参考になったと答えた。	A	A	文化祭に地域企業が参加し、面白かった。商工会議所(地元企業)と連携ができブースも良かった。素晴らしい取り組みでした。

		進路学力として、基礎基本の習得に加え、生徒個々で異なる進路目標を達成するための支援を充実させる。	・進学模試や小論文模試などの有効活用を通じた偏差値の向上。 ・大学進学希望者に関する進路検討会の定期開催（大学入学共通テスト受験対象者の検討を含む）。 ・学びの基礎診断の有効活用と、前回比較でGTZ 向上者 15% 達成およびD 3 取得生徒への支援。	進路支援部・教務部・学年部	・進学模試(受験 7 名) 令和 6 年度卒業生 数学・理科・英語 2 年次 D 段階 3 人 3 年次 D 段階 4 人 偏差値の向上は達成できなかった。 ・大学進学希望者の管理職を含めた進路検討会は実施できなかったが、生徒の進学準備としての指導体制は整ってきた。 ・GTZ 向上者 全体の 49.6%(174 人) 担任や各教科担当から、Dゾーンを中心に生徒への個別の声掛けや指導を実施した。	A	A	専門学校等へ進学して、専門知識・技術を学んだり、資格を取得したりした学生も地元企業人材として望んでいる側面もある。大学のオープンキャンパスに積極的に参加するよう呼びかけを続けてほしい。学歴（人材）を求める声が多いのは確かである。
		インターンシップ、ワークラリー、海外インターンシップ等、地元企業との連携を密にし、キャリア教育の充実を図る。	・「インターンシップ等をとおして、進路意識が向上した」と答える生徒 95% 以上。 ・「インターンシップ等をとおした企業研究により企業理解が深まった」と答える生徒 95% 以上。	学年部	・インターンシップに 2 年生が参加し、100%の生徒が「進路意識が向上した。」と回答した。 ・100%の生徒が「企業理解が深まった。」と回答した。	A	A	インターンシップは中小企業からも好評だった。参加していただきありがたい。中学生の保護者にも吉原工業生の活動を伝えてほしい。中小企業は後継者・技術者の育成の観点から、「工業生に入社してほしい」という声をたくさん聞く。
	基本的生活習慣の確立と職業人倫理観の向上	アフターコロナを意識した出席率の向上。時間厳守と挨拶の励行。	・毎日の登校指導の実施。 ・遅刻を各学年 1 日あたり 1 人未満に抑える。	生教 徒務 支部 援・部	・毎日登校指導を実施した。 ・各学年での遅刻人数 1 年生 0.7 人/日 2 年生 0.7 人/日 3 年生 0.6 人/日	A	A	特に挨拶はすばらしいと思う。

		学びへ向けた教室文化を醸成することで、生徒の学習環境を整える。	・学習意欲を喚起するための授業改善。 ・必要に応じた教科担当者会議の開催。	教務部	・授業改善に資する先進事例の共有化を図った(3件)。 個別対応が必要と考えられる生徒へ対応するために教科担当者会議を開催した(2回)。	A	A	次のステップとして良い事例をどのように他の現場に役立て効果があったのか、展開に期待する。先端技術への取り組み強化は大事だと思う。
		新学習指導要領の重要要素である「教科横断的視点の導入」および「教科指導と特別活動指導の往還」を意識し、「教科等横断MAP：人権教育（SNSの正しい利用を含む）」を整備・活用することで、規範意識・人権感覚を全校・通年の体制で醸成する。	・「人権を意識し、校則（ソーシャルメディアポリシーを含む）や社会のルールを守ろうとしている」と答える生徒100%の達成。	図書研修部 ・教務部 ・生徒支援部	・「人権を意識し、校則（ソーシャルメディアポリシーを含む）や社会のルールを守ろうとしている」と答えた生徒は97.0%だった。	A	A	SNSの使い方だけでなく、めまぐるしく多様化している状況で、発信の仕方、与える影響についても、ケアを行っていただきたい。
		生徒手帳への記入習慣化等を通して、自己管理能力の伸張を図る。	・生徒手帳活用に関する新たな方策の策定と運用。 ・「やるべきときに、やるべきことがやれた」と答える生徒95%以上。	学年部	・学校行事、学年、クラスに関して全体に記入指導をした事柄については実行できたと答える生徒が90%だが、個人の予定を活用したと答えた生徒は低かった。 ・「やるべきときに、やるべきことがやれた」と答えた生徒は1年93.6%、2年94.7%3年96.7%だった。	A	A	生徒手帳の活用には、スケジュール管理の重要性がある。To Doリストとして、先頭に、□チェックを入れる工夫も自己管理として有効である。紙の手帳にも良さがある。

エ	学習指導の 充実	公開授業を充実 させることで授 業改善に繋げ る。 他教科との授業 交流を行い、授 業改善（教材研 究）に積極的に 取り組む。	・公開授業を外部へ も公開。 ・公開授業週間に おける教員相互の授業 参観率 100%達成。 ・自主的な研究授業 実施者 15 人以上。	教 務 部	・公開授業とオープン スクールの 2 回、外部 へ授業公開をおこな った。（一般来校者 134 人） ・公開授業週間に おける教員の授業参観率 は 84.2%だった。 ・自主的な研究授業実 施者 6 人であった。	B	B	土曜日のオープン スクールで、中学 生・保護者をさら に呼び込めば、も っと P R ができる のではなかった。 教員の授業参観率 84.2%はすばらし いのではないかな。
		新学習指導要領 の趣旨を踏ま え、授業改善・学 習評価改善への 取組を一層進 め、生徒が主体 的に取り組める 授業づくりを行 う。	・「興味を持って主 体的に取り組める授業 がある」と答える生 徒 100%達成。 ・「授業が分かりやす い」と答える生徒 95%以上。	教 務 部	・「興味を持って主 体的に取り組める授業 がある」と答えた生徒 は 90.4%だった。 ・「授業が分かりやす い」と答えた生徒は 73.7%だった。	B	B	「興味を持って主 体的に取り組め る」90.4%は良い。 先端技術のなか で、基礎・基本を しっかり学ぶこと が、学習意欲に繋 がると思う。
		新学習指導要領 に則った、生徒 の 1 人 1 台端末 の活用推進。	・教職員研修の実施。	教 務 部 情 報	・AI 採点システムの利 用研修を 5 回実施し た。	A	A	教員の負担軽減に 大いに役立つもの と期待している。
オ	「役立ち感 育成プロジ ェクト」の 推進	地域との交流を 積極的に行うこ とにより、コミ ュニケーション 能力と自己有用 感を育てる。	・「この 1 年間で、他 団体との交流やボラ ンティア活動に参加 したことがある」と 答える生徒 65%以 上。	未 来 戦 略 委 員 会	・「この 1 年間で、他 団体との交流やボラ ンティア活動に参加 したことがある」と答 えた生徒は 48.2% （136 人）だった。	B	B	他校の状況から比 較すると低いと思 われる。
	Society5.0 を生き抜く 人材育成へ 向けた産業 教育の推進	探究的な学びを 充実させるとと もに、新学科対 応へ向けた実 験・実習の工夫・ 改善を行い、生 徒の学習成果の 発表機会を充実	・ものづくりに関心 があると答える生徒 90%以上。 ・イベントや出前講 座等による学習成果 の発表を年間 3 回以 上（各工業学科ご	工 業 科	・「ものづくりに関心 がある」と答えた生徒 は 80.5%だった。 ・全科がイベントや出 前講座等による学習 成果の発表を年間 3 回以上実施した。	B	B	ものづくりが売り の工業高校として は数値がもっと上 がってほしい。 学校が近いから、 受験してくる中学 生もいる。子供が、 入学前はものづく

		させる。	と)。					りに関心が低かったが、3年生になってもものづくりの楽しさに実感が持てた。入学後にもものづくりの興味が増加しているのではないか。
高大連携や企業等による外部指導者の充実および専門的スキルの向上と視覚化		外部指導者を積極的に活用することで、工業教育を充実させる。	・外部指導者の活用を年間3回以上（各工業学科ごと）。	工業科	・企業による講座や説明会の活用は、全科合計20回（科平均4回）実施した。	A	A	東洋レヂンさんとのコラボが、日本経済新聞に紹介されて、驚きと地域を支える学校として嬉しかった。
		生徒の技術・技術能力向上に取り組む、資格検定取得者数の増加を図る。	・「資格取得に向け、積極的に取り組んでいる」と答える生徒80%以上。	工業科	・「資格取得に向け、積極的に取り組んでいる」と回答した生徒は58.9%だった。	B	B	自発的な申込みや主体的に取り組むための工夫について、次年度に期待する。
		工業高校で学んだ知識技能を外部大会で発揮する機会を提供する。	・技能競技大会等へ積極的に参加し、4種目以上で上位入賞する。	工業科	・3科がものづくり競技大会に参加した。 溶接全国大会「4位入賞」 ジャパンマイコンカーラリー2025 東海大会ベーシッククラス「4位入賞」 ロボットアイデア甲子園「企業賞入賞」 県ロボット競技大会MCR部門ベーシッククラス「5位入賞」 ・全国プラモデル選手権大会「出場」	A	A	生徒の積極的な参加が見られ大いに評価できる。同時に、正門の所に多少小さな大会でも生徒の名前と出場大会名などたくさん掲示してあげてほしいと思う。 もっとPRすれば周囲がこんな大会があるのだと知る機会にもなるでしょう。
	企業人として必須である安全意識の確実な醸成	実習・実験時において、5Sに関する指導を徹底して実践する。	・「実習・実験では、5Sおよび安全確保を意識して取り組んでいる」と答える生徒100%達成。	工業科	・実習・実験で、「5Sおよび安全確保を意識して取り組んでいる」と答える生徒は97.2%だった。	A	A	安全safetyについては、特に大切だと思う。安全教育にも力を入れている点を評価する。

力	ホームルーム活動および生徒会活動の自主的な運営	行事等を成功させ、自己有用感を育む。 各専門委員会の活動を活性化させ、主体性および協調性を育てる。	・「伝統行事である吉峰祭に積極的に参加し、係の仕事をを行った」と答える生徒100%達成。 ・清掃活動や環境整備作業に積極的に取り組んでいると答える生徒70%以上。	生徒支援部・総務部	・吉峰祭に積極的に参加し、係の仕事をを行ったと回答した生徒が88%であった。 ・清掃活動、環境整備作業に積極的に取り組んでいると回答した生徒は、69.8%で概ね達成できた。	B	A	企業との連携を深めながら行った吉峰祭は、とても新鮮味があり、内外にとっても良いPRになったと思う。生徒会が主体となった能登への支援活動は大いに評価できる。
	部活動の活性化	部活動の活動計画に沿って、効率的効果的に活動し、参加しやすい環境を整える。 生徒による応援活動により愛校心を育て、選手の自己有用感の醸成を図る。	・「部活動に無断で休まず取り組んでいる」と答える生徒85%以上。 ・部活動壮行会の定期的な開催。	生徒支援部	・部活動に無断で休まず取り組んでいると答えた生徒が75%だった。 ・東海大会、全国大会に出場する部活動や個人について、その都度壮行会を行った。	B	B	部活の目標や目指す資質等を示すことは重要であり、生徒の自己有用感や自己重要感を育てる。指導のあり方に期待する。
	読書活動を通じた知性・創造力の育成	本に親しむ習慣を身に付けさせるとともに図書館活用の促進を図る。	・図書だよりの定期的な発行と貸出数の増加。 ・「朝読書の時間は有意義だ」と答える生徒80%以上。 ・「図書館やフリーレントラルブックコーナーにある本を今年度読んだ」と答える生徒70%以上。	図書・研修部	・図書だよりの発行数は年間で5部。図書の貸し出し数は297冊。(昨年度229冊) ・「朝読書の時間は有意義だ」と答えた生徒は66.9%だった。 ・「図書館やフリーレントラルブックコーナーにある本を今年度読んだ」と答える生徒43.0%。	B	B	読書において、デジタル本も進めてみてはどうか。本に親しむ習慣に結びつけばと思う。富士市立図書館や国立図書館もデジタルで見られるようになっている。今後、図書室等で本を借りた冊数だけの評価では、課題がある。
	放送活動を通じた学校教育の活性化と、生徒の主体性の	生徒が放送業務を主体的に運営する環境を整備し、生徒の活躍機会を充実させ	・昼休み、体育祭、吉峰祭における放送業務の実施。 ・校外イベントへの	図書・研修部	・それぞれの行事で放送計画を立て、生徒は主体的に計画通り活動できた。 ・未来の科学者フェス	A	A	今後、弊社(自動車学校)の教習開始にともなう放送の一部をお願いしたい。

	育成	る。	放送担当としての参加。	部	ティバルおよび静岡県高校生ロボット競技大会に放送担当として参加した。			
キ	学校公開・情報発信の充実による地域・家庭との信頼関係の構築	工業高校の魅力を見直し、積極的に広報する。	・学校ホームページのCMS移行や、学校案内および広報チラシのデザインと配布方法等に関し、グローバルな視点から有効な広報方法を検討する。 ・夏季休業中に1年生・進路決定後に3年生が母校訪問を実施することで効果的な広報活動を展開する。 ・富士地域におけるイベントへの参加に加え、新たな工業系イベント(プラサヴェルデ開催)に全学科が参加すること等により、小中学生保護者への発信を含めた広報活動に繋げる。	未来戦略委員会・学年部・工業科	・県の広報デザイン支援事業を受け、デザイン事務所と連携して学校案内やポスター等のデザインを一新した。 ・昨年度に引き続き、夏季休業中で高1生による母校訪問を実施し、行事として定着化させた。実施できない中学校は管理職が訪問し、本校の認知度等を分析した。 ・富士地域のイベント ①ものづくり力交流フェア全科参加予定 ②ジャトコフェスタ2科参加 ・新たな工業系イベントに全科参加し「未来の科学技術者フェスティバル」に来場した小中学生、その保護者にもものづくりの楽しさを発信した。	A	A	吉原工業ホームページのCMS移行で発信力が強化され素晴らしい。学ぶことの意義・魅力が増したと感ずる。発信内容が具体的などころが良い。富士地域のイベントに参加したことが、中小企業の魅力を知ったり、学習に繋がったりする。加えて、学校と地域(企業)の連携にもなる。できる範囲でもっと地域の企業、多種多様な団体と連携した取り組み、PRを期待する。子ども向け職業体験を目的とした「ヒナカラムチコ」でもぜひ引き続き連携させてほしい。
		公式ホームページや公式SNSを活用した学校広報活動を推進する。	・投稿担当者を明確にすることで、公式ホームページへの投稿月平均10回以上。 ・投稿担当者を明確	教務部情報	・SNSへの年間の投稿数が135件であり月平均11.25件であった。 ・公式SNSを	B	B	日々の投稿から、保護者も学校の様子がわかり、効果が上がっているのではないかと。沖縄

			にしつつ、公式SNSを精選統合することでフォロワー1200以上。		Instagramへ統合した。フォロワー：1081人、投稿数：135件(2025.1.15)			修学旅行の発信も良かった。 管理が難しいと思うが、生徒さんがアップ（生徒会など）していくと生徒どうし見たり、さらに広がったりするのではと思う。SNSの活用について、今後改善できるところは進めてほしい。
		全教職員を対象とする校内研修を計画的に実施することにより、人権意識を醸成しながら不祥事根絶への強い意識を維持する。	・「研修等を通し、不祥事根絶に向けた意識が高まっている」と答える教職員100%達成。	管理職	・職員会議の中で、コンプライアンス研修をこれまで、12回実施して不祥事根絶の強い意識を維持することに努めた。教職員へのアンケートで96.2%が「高まっている」と回答した。	A	A	職員のコンプライアンス研修のところは、とても重要だと思う。 職員のSNS活用についても教養を行っていく必要がある。
ク	自律的で信頼される学校事務の推進	法令を遵守し、正確で迅速な会計事務処理を行う。	・監査での文書指摘事項をゼロにする。	事務部	・各担当者が積極的に工夫してチェックリストを作成・活用し、監査での指摘はなかった。	A	A	日頃の皆さんの努力のたまものと思う。
		教職員と連携した施設設備の安全点検を実施し、計画的に改善への取組を行い、安心安全な教育環境の整備を行う。	・「施設や設備は安全が保たれている」と答える生徒、保護者ともに90%以上。	事務部	・「施設や設備は安全が保たれている」と答えた生徒92.9%、保護者94.5%だった。	A	A	グラウンド照明の全LED化に期待する。
ケ	働き方改革に向けた業務改善	ブラウザ型AI採点システムの導入により教員の採点時間軽減	・新システム活用に関する研修会等を開催し、「採点時間が短縮された」と答える	教務部	・これにより「採点時間が短縮された」と答えた教員は94%だった。	A	A	働き方改革の観点から良い。

		を図る。	教員 80%以上。					
		定時退勤に向けた目標を立て、取り組む。	・「定時退勤日に定時退勤に向けた目標を立てて取り組んだ」と答える教職員が95%以上。	管理職	・毎月定時退勤調査を実施し、年間通して96.3%の教職員が「目標を立てて取り組んだ」と答えた。	A	A	管理職の負担をもう少し減らし、若い先生が将来管理職をめざしたいと感じる環境に構築していく必要がある。
		部活動の活動計画に基づいた実施に努めるように働きかける。	・「部活動の活動計画に基づき活動できた」と答える教職員100%達成。	管理職	・「今年度、部活動の活動計画に基づき活動できたか」という問いに「できた」と答えた教職員は100%であった。	A	A	コロナ禍と比べてさまざまな行動制限が緩和され活動の幅が広がってきた。高校生活がより充実した濃密な3年間となるよう今後も活動計画に基づき生徒を支えてあげてほしい。